

2017 年度(平成29年度)学校評価自己評価表

| | | |
|--------|------------------|-------------|
| 済美中学校区 | 校番 18 | 福山市立 瀬戸小 学校 |
| 最終更新日 | 2017年(平成29年)4月3日 | |

I 福山市

| |
|---|
| <p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p> |
|---|

II 中学校区

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○かかわり合いを大切にしながら、子ども同士がつながる教育活動の推進</p> <p>○地域へのボランティア活動などを通して、自己肯定感を高め、地域貢献できる人材の育成</p> | <p>児童生徒の現状</p> <p>○「基礎・基本」定着状況調査については、小中ともおおむね定着している。</p> <p>○無言清掃の取組を通して、児童生徒の意識が高まり、集中して清掃に取り組む児童生徒が増えた。</p> | <p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p> | <p>○課題発見・解決力(自ら考え学ぶ力) ○コミュニケーション力(言語活動)</p> <p>○共感的人間関係・自己決定力・自己存在感(生徒指導の三機能)</p> <p>① 生き方を判断するための「基礎学力」を身につける。</p> <p>② 人格の発達や豊かな人間性を身につける。③ 目標に向かって努力し、「チャレンジ」する。</p> <p>21世紀型スキル&倫理観の育成</p> <p>○問題発見解決学習を授業に取り入れる。</p> <p>○根拠を持ったわかる表現をさせる。</p> <p>○無言清掃に取り組ませる。</p> <p>○小中合同あいさつ運動を行う。</p> |
|--|--|--|--|

III 自校

| | | |
|---|---|--|
| <p>ミッション</p> <p>○自己肯定感をもち、自分から進んで学ぼうとする子どもの育成</p> <p>○地域社会のために役に立ちたいという意欲をもった子どもの育成</p> | <p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p> <p>5・6年生</p> | <p>○課題発見・解決力 ○コミュニケーション力 ○共感的人間関係</p> <p>・「めあて」と「まとめ」をていねいにノートにししゃできる</p> <p>・はっぴょうするとき、「わたしは(ぼくは)、～です。」といういいかたができる。</p> <p>・だれにでもあかるく、げんきのいいあいさつができる。</p> |
| <p>学校教育目標</p> <p>自ら考え学び、貢献する子どもの育成</p> | <p>3・4年生</p> <p>5・6年生</p> | <p>・分かったことや考えたことを、図や絵などを使ってかくことができる。</p> <p>・あいてに分かりやすいように考えて発表できる。</p> <p>・だれにでも明るく元気のいいあいさつができる。</p> <p>・気づきなど自分の考えを入れたノートをとることができる。</p> <p>・相手や目的に応じて分かりやすいように工夫して発表できる。</p> <p>・自分からすすんで相手を意識してあいさつができる。</p> |
| <p>現 状</p> <p><児童生徒></p> <p>○「基礎・基本」は概ね定着しているが、様々な場面への活用は不十分である。</p> <p>○学ぶ意欲は出てきたが、行動化までには至っていない。</p> <p>○あこがれの先輩の行動から学び、やさしさが育ってきた。</p> <p>○地域の清掃活動やボランティア活動に参加する児童が増えてきた。</p> <p><授業></p> <p>○理科教育研究は、「不思議だ」で始まり問い続ける学習展開を目指している。</p> <p>○図工科教育研究で、表現することに自信をもたせる授業を目指している。</p> <p>○「めあて」を意識し、本時の学習をふり返ることが定着してきた。</p> <p>○ペア学習で、反応を返したり質問したりすることは不十分である。</p> <p>○学びに対して意欲的になってきた。</p> | <p>教科等</p> <p>理科 ・ 図工科</p> <p>研究</p> <p>主題・内容等</p> | <p>「科学的に思考し、表現できる子どもの育成</p> <p>～実感を伴った学びと、かく活動を通して～」</p> <p>実感を伴った学びの場を設定し、理科における問題解決場面において言語活動の充実を図り、かく活動に重点を置くことで、科学的なものの見方を育てる。</p> <p>めざす授業の姿</p> <p>○児童が疑問をもった事柄の中から課題を見つける授業。</p> <p>○課題解決に向け、自力で調べたり考えたりして根拠をもとにまとめる授業。</p> <p>○解決方法を全体で話し合い、友達の考えから学び、自分の考えを伝える授業。</p> |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 瀬戸小 学校

| 年目 | 中期経営目標 | 重点 | 分類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | 最終評価(2月末) | | | | |
|----|-----------------|----|----|------------------------------|--|---|-------------|---------|------|-----------|--------------------------------|---------|------|------|
| | | | | | | | □指標に係る取組状況 | 70%以上評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 | 70%以上評価 | 達成評価 | 総合評価 |
| 1 | 21世紀型スキル&倫理観の育成 | ★ | 新規 | 「課題発見・解決力」、「コミュニケーション力」を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画一覧表を基に、授業を行う。 「めあて」と「まとめ」を整合させ、「ふり返し」を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 全国標準学力検査(CDT)の全国平均を超える 単元末テストで、達成率を85%以上 児童作文 | | | | | | | | |
| 4 | 豊かな心の育成 | | 継続 | 児童の自己肯定感を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童会の主体的な活動(一日一善)を支える。 縦割りの掃除で児童間の学び合いを促す。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の自己肯定感(肯定95%以上) 無言掃除等のふり返し | | | | | | | | |
| 1 | たくましい体の育成 | | 新規 | 頑張ることのできる体をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> 運動課題を設定し、継続して取り組む。 食への関心を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 継続して取り組む児童85%以上 「弁当づくりの日」を年4回設定 | | | | | | | | |
| 4 | 開かれた学校づくりの推進 | | 継続 | 保護者や地域とのつながりを深める。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校だより・学年便りを定期発行する。 ふるさと学習を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者の学校満足度(90%以上) 地域に貢献できたか(作文) | | | | | | | | |

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|--|
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 |

| 評点 | 評価基準 |
|----|------------------------|
| 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 |
| 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 |
| 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 |
| 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 |
| 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 |

| 評点 | 評価基準 | |
|----|-----------------|-----------------|
| 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |